

〔例会調査報告〕

木曽郡王滝村の植物観察会

元島清人

第145回例会は、平成7年6月25日（土）～26日（日）の2日間、木曽郡王滝村の滝越～三浦、氷ヶ瀬～助六一帯で、植物誌の補充調査を兼ねて行われた。

参加者は井波一雄、大塚孝一、小口好久、小沢正幸、斉藤章一郎、竹花けい子、松田行雄、宮島吉彦、島尻光恵、例会幹事の元島清人の計10名でした。

第1日目の6月25日は、午後5時に集合し宿の近くの御岳神社里宮社叢の植物観察を行った。神社の後ろには御岳熔岩流によってつくられた岩壁があり、クモノスシダ、イワトラノオ、イワデンタ等のシダ類やクモマナズナ、ツルネコノメソウが見られ、社叢ではヒノキ、サワラの下層にヒロハイヌワラビ、ホソバシケシダ、ジュモンジシダ、ケベニバヤマシャクヤク、コマヤマハッカ、チドリノキ、ムラサキシキブ、ヤマアジサイ、クロモジ、シロモジ等があり、井波先生から、モミジイチゴとハスノハイチゴの雑種であるオオミネキイチゴを教えていただきました。また近くの民家でシダレサンショ、シナノコガキを観察した。

第2日目の6月26日は民宿藤屋を午前7時出発、王滝営林署の入林許可を受け、夫々自家用車に便乗し鞍掛峠方面の組と助六谷方面の組に別れて観察した。鞍掛峠方面は滝越部落～三浦ダム～鞍掛峠へ、途中の土浦林道ではイワアカバナ、タニギキョウ、ホソバヤマ

ハハコ、ハクサンカメバヒキオコシ、中浦林道ではオオヤマレンゲ、ヒメイチゲ、ハスノハイチゴ等、岐阜県境の鞍掛峠では、バイカオウレン、ミヤマモミジイチゴ、キソキイチゴ、フモトスミレ、オヤマリンドウやヒノキ、ネズコ、サワラ等の天然林を観察しました。鞍掛峠は遠く、林道は不陸が多く自家用車がかわいそうなくらいでした。一方、助六谷方面は滝越の八王子神社の森でウスゲタマブキ、ハエドクソウ、トチバニンジン、エイザンスミレ、ユキザサ等が見られ、白川林道を経て白巣峠～氷ヶ瀬林道～鯨川林道～真弓峠～助六の順路で行動しました。白巣峠付近では、ウスギヨウラク、ヤマテキリスゲ、クルマバハグマ、ヤマナラシ等、峠の下の方の湿地ではヌマハリイ、ヒルムシロ、タマミクリ、ツボスミレ等、峠の下方の林道端ではオオイタドリも見られた。真弓峠～助六ではハスノハイチゴ、キソキイチゴ、タマガワホトトギス、コンロンソウ、カニコウモリ、マルバノキ、ハクウンボク、ショウジョウバカマ、モウセンゴケ等、鯨川林道と鯨川の交差する箇所では、マイズルソウ、ダイモンジソウ、キバナノコマノツメ、コイワカガミ、バイケイソウ、コメツツジ、コックバネウツギ、シモツケソウ、コイワカガミ、フウリンウメモドキ、キョウマルシャクナゲ、サツキ、アカヤシオ、コヨウラクツツジ等が見られた。

今回は植物誌の補充調査を兼ね行われましたが、調査箇所が広範囲で山域が奥深いこともあり解散は午後5時半になりました。木曾ヒノキの美林や下層植生など観察を十分に行うことができました。